

吸収冷温水機／冷凍機には 定期的なメンテナンスが必要です。

一貫したサービス体制でお客様をサポートいたします。
吸収式冷温水機(冷凍機)は、高度な真空状態を維持しながら運転することで十分な能力を発揮することができます。



また、健全な状態で運転するためには

(各熱交換器の熱交換状態の)定期的な点検、メンテナンスが必要です。

中部エアークリーナーでは冷暖房の切替作業、運転状態のチェック、燃焼状態の確認・調整、その他、付帯設備の点検、メンテナンス……お客様をサポートします。

定期保守点検

吸収式冷凍機の保守管理では、以下の項目が大変重要です。

機内を高度の真空状態に維持

吸収液のインヒビター管理(成分・濃度管理)

冷却水 水質管理

オーバーホール(整備工事)

・部品の点検・交換

(燃焼系部品、真空維持部品、安全保護部品、電装部品、ポンプ等)

・電熱管の過流探傷検査、減肉に対する処置

・吸収液のろ過・再生

・熱交換器 炉内洗浄

付帯設備のメンテナンス

吸収式冷凍機の空調システムでは、様々な設備が組み込まれています。システムの性能・機能を維持するためには、これら付帯設備のメンテナンスも大変重要です。

- ・冷却塔の点検、清掃
- ・ファンコイルユニット、エアハンドリングユニットの点検・清掃
- ・冷温水ポンプ、冷却水ポンプの点検・交換
- ・各種ストレーナーの点検・清掃

〔定期点検〕

吸収式冷温水機（冷凍機）の溶液に使用している臭化リチウム水溶液は、大変腐食性の高い性質を持っています。

機器の真空管理を怠ることにより、内部腐食による能力低下を起こし、機器の寿命を短くする恐れがあるため、定期点検による機器の状態、溶液管理をおすすめします。

〔冷却水 水質管理〕

冷却塔（クーリングタワー）で冷却水を放熱し、濃度が上昇することにより、伝熱管に付着するスライム及びスケール分を抑えるためには、適切な水処理、水質管理が必要です。

〔オーバーホール（整備工事）〕

機器に使用している部品などの経年劣化による運転時の不具合が発生する前に、各パーツの交換をご使用年数により、ご提案をさせていただきます。

〔付帯設備のメンテナンス〕

吸収式冷温水機を安心してご使用していただくには、冷却塔（クーリングタワー）・空調機・ファンコイルユニット・ポンプ類の定期的なメンテナンスが必要です。



■**吸収冷温水機 点検内容**(ご使用状況、運転時間、型式などによって異なります。)

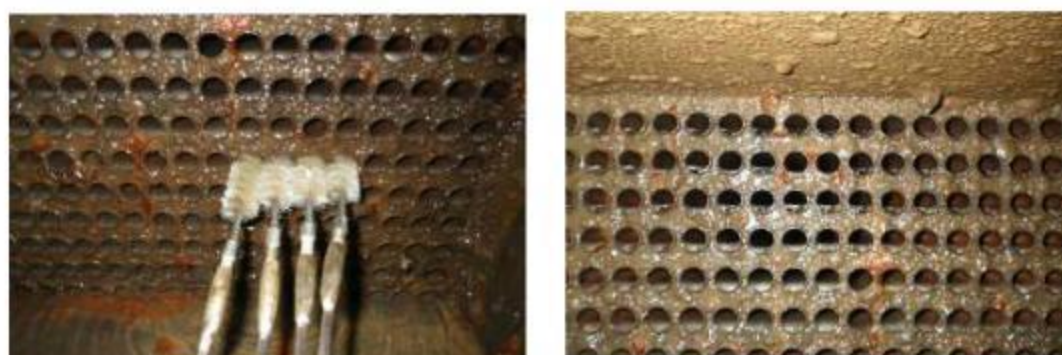


■**吸収冷凍機 点検内容**(年間冷房運転の場合の一例。ご使用状況、運転時間、型式などによって異なります。)



- 1回目 5月頃 冷房イン点検 冷房運転を行うための切替作業、運転確認
- 2回目 7～8月頃 冷房オン点検 冷房シーズン中の点検
- 3回目 10月末頃 冷房オフ点検 冷房運転終了時の機器点検
- 4回目 11月初／4月頃のいずれか1回 冷却水系(冷水)伝熱管洗浄
伝熱管内ブラシ洗浄もしくは中性薬品洗浄
- 5回目 11月頃 暖房イン点検 暖房運転を行う為の切替作業、運転確認
- 6回目 1～2月頃 暖房オン点検 暖房シーズン中の点検
- 7回目 3月 暖房オフ点検 暖房運転終了時の機器点検

冷却水系伝熱管ブラシ洗浄のおすすめ



冷却水系伝熱管は冷却塔水槽内水に含まれるシリカ分やカルシウム、運転中に発生するスライム分の付着により機器内での熱交換が低下し冷房能力の低下、燃費の増加、異常停止の原因となります。

冷温水機(冷凍機)を常に健全な状態で安心して運転していただくために、定期的なブラシ洗浄または中性薬品洗浄をおすすめします。

また、伝熱管内面に付着したシリカ分の除去には薬品洗浄をおすすめします。

整備工事(オーバーホール)



整備工事(オーバーホール)

吸収式冷温水機(冷凍機)に付属している各種パーツ(真空系・燃焼系・電気系・ポンプ系等)の経年劣化による不具合(異常停止・能力低下等)が発生する前に予防保全として整備工事(オーバーホール)が定期点検以外にも必要です。

冷却水系 水質管理



冷却水 水質管理

冷却塔(クーリングタワー)で放熱し濃縮した冷却水はスケール・スライムの発生により吸収器・凝縮器での熱交換低下を及ぼします。冷却水の水処理管理を行うことによりスケール・スライムを抑制し、燃料費上昇を抑える事ができます。